



大矢 紀

会長 木村良三 幹事 宇津木茂夫

第 1523 回 例会記録 2025 年 2 月 13 日 (金) S.A.A.委員長 鈴木憲治

- 【開会点鐘】 木村良三 会長
 【S.A.A】 青戸慶太 委員
 【例会場】 ホテルモリノ
 【ソング】 ローターソング『それでこそロータリー』
 【本日のお客様ご紹介】 木村良三 会長

◆桑原薫様 第 1590 地区 職業奉仕委員長 横浜港北 RC

※例会ご参加者 ◆^ラ ^{チンタクテン} 羅 陳澤天 さん 米山奨学生

【会長報告】 木村良三会長



- ガバナー事務所より ウクライナへのエネルギー部門支援の為の寄付サイトの紹介が届いております。
- 2025-26 年度、2026-27 年度第 3G ガバナー補佐より、『第 3G 会員合同交流会』開催のご案内が届いております。4 月 16 日(木) 18:00～ホテル ARU KSP 参加費 10,000 円
- 川崎百合丘ロータリークラブより、『訃報』が届いております。謹んでお悔み申し上げます。
 鴨志田 敏彦会員ご尊父 鴨志田 章 儀(享年 97 歳)
 通夜 :2 月 16 日(月) 18 時から
 告別式:2 月 17 日(火) 12 時 30 分から 13 時 30 分
 式場 :常念寺 栗平会館
- 横浜南ロータリークラブより、『和の集い』のご案内が届いております。
 3 月 15 日(日)11:00～14:00 関東学院中学校高等学校 参加費無料 昼食あり(ロータリアンのみ 3,000 円)
- 横浜あざみロータリークラブより、『オープン例会』のご案内が届いております。3 月 25 日(水)13:15～14:45 アートフォーラムあざみ野 ビジター費 2,000 円



宇津木茂夫 幹事



鈴木眞一
出席委員長



鈴木昭弘
ニコニコ委員長

【幹事報告】

宇津木茂夫 幹事

◆会報着 ○川崎大師 RC

第 2451 回(9/3)～第 2462 回(12/17)

【出席委員会】 鈴木眞一 委員長

例会	会員	出席	欠席	修正	出席率
1523 回	25	18	7		72%
1522 回	25	19	6	2	84%
1521 回	25	15	10	4	76%

【委員会寄付】

委員会	第 1517 回(件数)	合計
ニコニコ委員会	17 件	¥ 21,000

【ニコニコ委員会 メッセージ】

鈴木昭弘 委員長

〈お客様〉 ◇桑原薫様【本日、お世話になります】

〈会員〉 ◇木村良三会長【桑原委員長 ようこそお越しく下さいました】 ◇宇津木茂夫幹事【同上】 ◇志村幸男会員【同上】 ◇鈴木憲治会員【地区米山奨学委員会では、永い間大変お世話になりました】

◇青戸慶太会員 ◇碓井美枝子会員 ◇梅澤馨会員
 ◇親松明会員 ◇梶俊夫会員 ◇佐々木範行会員
 ◇鈴木昭弘会員 ◇鈴木眞一会員 ◇鈴木豊成会員
 ◇中山隆弘会員 ◇長是敏之会員 ◇花輪孝一会員

以上、ご協力ありがとうございました。

第 1 5 2 4 回例会	2 月 2 0 日 (金)	創立記念例会	東京国際ゴルフ倶楽部レストラン
第 1 5 2 5 回例会	2 月 2 7 日 (金)	職場訪問	寒川神社
第 1 5 2 6 回例会	3 月 6 日 (金)	誕生日当日賞例会	移動例会

【例会日】 第 1・2・3・4 金曜日 12:30～13:30 【例会場】 ホテルモリノ 新百合丘 7F TEL: 044-953-5111

※第 5 金曜日 休会 連絡先: 川崎麻生ロータリークラブ事務所 TEL: 044-951-1322

【卓話】

第2590地区職業奉仕委員長

〈プロフィール〉 ※一部省略

桑原 薫 様

KTC 株式会社代表取締役 早大(政経)卒

1998 横浜港北ロータリークラブ入会

2007 地区副幹事 2008 米山奨学金増進委員長

2010 地区ローターアクト委員長

2011 クラブ会長 50 周年

2012・2023 ロータリーの友地区代表委員

2014 地区ロータリー情報委員長

2020 ロータリーの友地区代表委員 2021 ガバナー補佐

2024・2025 地区職業奉仕委員長 地区研修委員



Service と奉仕の関係 〈以下、資料より〉

- ①Service・Work・Activity のどれもが「勤務・任務・仕事・事業・役割」と訳せる。
- ②Service も Duty も「勤務・任務・職務・役割・機能・敬意」と訳せる。
- ③以上のことから「Service=奉仕」ではないということが分かる。
- ④「奉仕=仕え奉る」だが、「奉る」は謙譲語ではなく補助動詞である。
- ⑤古来「Service=奉仕=仕えること」だった。しかし、Service は産業革命を通して「人の役に立つ働き」「果たすべき務め」という意味をもった。一方、奉仕は江戸時代に「見返りを求めずに、尽くすこと」という意味をもった。
- ⑥このことから、Service は「利益を生む」が、奉仕は「利益を生まない」ということが分かる。つまり、Service と奉仕は「反対概念」でもあるのだ。
- ⑦サービス価格 (Special Service) を「奉仕価格」と言い換えることができる。また、サービス品 (Bargain Goods) を「奉仕品」と言い換えることができる。しかし、この「サービス」は和製英語だ。
- ⑧喫茶店のモーニングサービス (Morning Special) も和製英語だ。
- ⑨英語の Morning Service は「朝の礼拝」だ。この Service は、神に対する「奉仕」といえるが「奉仕=無償の尽力」という意味ではなく、「奉仕=仕えること」という意味で使われている。
- ⑩「無料・おまけ」の意味で使われている「サービス」は和製英語であり、英語の Service に「無料・おまけ」という意味はない。
- ⑪中国では英語の Service は「服務」と訳され、日本語の奉仕は「利他主義=Altruism」と訳されている。
- ⑫梅吉翁は Service を「サービス」と訳した。しかし、神

戸 RC の外国語禁止提案 (1934) によって「サービス」が一律「奉仕」に書き換えられた。

- ⑬ロータリーでは、Service は「貢献・寄与・役務・責務・部門・訓練」などの意味で使われている。

日本のロータリーにおける誤解の原因

1 可算名詞と不可算名詞の違い

	可算名詞の場合	不可算名詞の場合
self	我	我欲・利己心・身勝手
fellowship	同志の集まり	親睦
friendship	友好関係	友情
service	有用(役に立つこと) 服務(仕事につくこと)	役務(他者の為の労働) 義務としての役務
society	利益社会(利害関係者)	つき合い
community	共同社会(地域社会)	共有
acquaintance	知人	知識
development	発達	発展・向上・開発
civilization	文明	教化

2 標語の fellows(仕事相手)と、綱領の society(利益社会)及び、四つのテストの all concerned(関係者全員)は、全て、1963 年に出来た言葉であるステークホルダー(利害関係者)と同義である。

3 Service には、貢献・提供・雇用・勤務・勤労・業務・仕事・事業など様々な訳語があるが、これらの訳語に奉仕(無償の尽力)という意味合いがない。

4 「奉仕活動」の英訳が、Volunteer Service や Volunteer Activity であることから「Service=奉仕」ではないということが分かる。なお、volunteer(自発的な)に「無償や奉仕」という意味合いはない。

5 日本のロータリーは、Community Service Activities(社会貢献活動)を「社会奉仕活動」と訳し、Community Service(社会サービス)を「社会奉仕」と訳したが、両者は別のものである。なお、前者は活動であり、後者は運動である。

6 事業主同士が Trade(商取引)と Talk(情報交換)をするために創られたロータリーであったが、1907 年に社会貢献活動を始めた。しかし、翌年には「サービスの理論」という経営学の実践を奨励した。1922 年、ロータリーは、この経営学を哲学に変換し、「この哲学を貫き、これを世に広める」という運動を Object(目標)に掲げた。翌年、この運動を Community Service(社会サービス)と名付けた。一方、Community Service Activities(社会貢献活動)を「いわば研究室の実験」とみなし、会員を訓練するための手段と位置付けた。

7 Vocation(職業)には「天職」という意味があるが、Vocational(職業的な)に「天職」という意味はない。

職業奉仕と社会奉仕

- ① 1905 年、ポール・ハリスは「事業主同士」が Trade(商取引)と Talk(情報交換)をするために Fellowship(同志の集まり)を創った。この団体に入って裕福になる者も現れた。
- ② しかし、1906 年に、ドナルド・カーターから「自分達の利益しか考えない団体には入りたくない」と言われた。そこで 1907 年、ロータリーは Community Service Activities(社会貢献活動)を始め、1908 年には「Service の理論という経営学を集団で学び、この理論を個々人で実践する」という Service(役務)を始めた。

前者は Community への貢献だが、後者は Society (利害関係者＝ステークホルダー) への Service (貢献) である。

- ③ この経営学の核心が「最善の Service (貢献) が最大の利益を生む」という Principle (原理) だ。1915 年、哲学委員長グレン・ミードは、この原理を The Ideal of Service (サービスの理想的な原理) と呼んだ。なぜなら、Principle = 目指すべき Ideal (理想的な原理) だからだ。1918 年、この原理は「企業」の Basis (基本原理) として推奨された。
- ④ つまり、The Ideal of Service は企業原理であり「利益を生む原理」だが、これが、奉仕の理想 (1934) や、奉仕の理念 (2012) と訳されたために、真意が伝わらなかった。なぜなら、Service は利益を生むが、奉仕は利益を生まないからだ。
- ⑤ 実は、近世に、Service (仕えること) が「有用な仕事」という意味をもつ一方で、奉仕 (仕えること) は「無償の尽力」という意味をもったのだ。梅吉翁は Service を「サービス」と訳したが、神戸 RC の外国語禁止提案 (1934) によって、これが一律「奉仕」に書き換えられたため、重大な誤解が生じた。なぜなら、ロータリーにおいて、Service は「貢献・役務・役目・仕事・部門・訓練」など様々な意味で使われているからだ。
- ⑥ 1922 年、ロータリーは「商売を成功させる」ための経営学を「真の幸福を掴む」ための Philosophy (哲学・信念・生き方) に変換した。そして、Service の対象を Society から「全ての人」に拡大した。この生き方が「ロータリアンの各々が、個人生活・職業生活・社会生活において、前述の原理を Application (応用) する」という生き方だ。
- ⑦ 1922 年、ロータリーは「この生き方を貫き、これを世に広める」という Movement (運動) を目標に掲げた。この運動は Community Service (社会サービス) と名付けられた。
- ⑧ ところが、日本のロータリーは、この Community Service (社会サービス) を「社会奉仕」と訳し、1907 年に始まった Community Service Activities (社会貢献活動) を「社会奉仕活動」と訳してしまった。当然ながら、両者は混同された。その結果、Community Service Activities (社会貢献活動) が目標に掲げられたことになってしまったのだ。
- ⑨ 1927 年、Community Service を三分割し、その一つ (職業生活部門) を Vocational Service (職業サービス) と名付けた。つまり、Vocational Service とは「ロータリアンの各々が、職業生活において、前述の原理を応用するという生き方を貫き、また、これを世に広める」という運動につけた名前 (固有名詞) だったのだ。
- ⑩ つまり、Vocational Service が「理解し難いもの」になっているのは、これの生みの親である Community Service が存在しなかったことになっているからなのだ。

第一標語の真意

1905 年、事業主同士が Trade (商取引) と Talk (情報交換) をするため、ロータリークラブという Fellowship (同志の集まり) が創られました。

無法地帯のシカゴにおいて、騙されずにすむ会員同士の取

引は、会員にとって大きな特典となりました。この取引で裕福になった会員は「この特典を出し惜しみせず、会員外にも Service (提供) すれば、取引が拡大するので、かえって儲かる」と考えました。

そこで、1911 年に「Self (利己心・出し惜しみ) ではなく、Service (提供) こそが利益を生むのだ」と言う意味の Service, Not Self という標語を発表しました。しかし「Self が利益を生むこともある」ので、後に「Self よりも Service の方が、より多くの利益を生む」という意味の Service Above Self に修正されました。

梅吉翁は、Self を「自分」と解釈し、この標語を「サービス第一、自分は第二」と訳しました。しかし、日本のロータリーは 1934 年に、この標語を「超我の奉仕」と訳すことにしました。なぜなら、神戸ロータリークラブの外国語禁止提案によって、サービスを「奉仕」に書き換えることになったからです。

その結果「Service (貢献) が利益を生む」という真意が伝わっていませんでした。なぜなら、奉仕 (無償の尽力) は利益を生まないからです。

第二標語の真意

1908 年「Service の理論という経営学を集団で学び、個人でこの理論を実践する」ことが推奨されました。1910 年、この経営学のエッセンスが「ロータリーの標語」として発表されました。

それが「自分の仕事相手に、最もよく貢献する者が最も多くの利益を得る」という意味の He Profits Most Who Serves His Fellows Best という標語です。なお、Fellows とは、事業主から見てステークホルダー (顧客・取引先・従業員など) のことです。1911 年、His Fellows (自分の仕事相手) は省略されました。

1923 年の公式文書には「この標語は Practical (現実的) で Ethical (合理的) な Principle (原理) である」と明記されています。また、1929 年、英国のロータリーは「この標語は品がない」として、この標語の廃止を要求しました。

1934 年、このような事実があるにもかかわらず、この標語は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と訳されてしまいました。なお、Profit (儲かる) に「報われる」という意味はありません。



本日は、有難うございました。

【四つのテスト】 碓井美枝子 会員
【閉会点鐘】 木村良三 会長
【会報委員会】 鈴木眞一 委員長
写真：碓井美枝子 委員

